

( 電子メール施行 )

農 技 第1592号

平成29年 2月8日

各関係機関長 様

兵庫県病害虫防除所長

病害虫発生予察注意報 第1号を下記のとおり発表します。

タマネギ圃場で、べと病の越年罹病株を確認しています。圃場での発生状況を観察し、「罹病株の抜き取り」と「薬剤防除」を徹底するようご指導願います。

## 平成28年度 病害虫発生予察注意報 第1号

### タマネギべと病の防除対策について

- 1 対象作物 タマネギ(極早生・早生品種)
- 2 病害虫名 タマネギべと病
- 3 発生地域 淡路地域
- 4 発生程度(時期) 多い(早い)
- 5 発生状況・予想について

- (1) 淡路地域でべと病の越年罹病株(育苗～本田初期に感染した株)の発生が確認されている。
- (2) 2月3日に極早生・早生品種の現地調査を実施したところ、発病圃場率3.9%、発病株率0.01%であった(表1)。(多発した昨年の同時期:発病圃場率7.1%、発病株率0.02%)。現在確認されているのは、越年罹病株と考えられる。
- (3) 圃場内に発病(写真参照)が認められた場合、今後の気象状況(気温・降雨等)により、胞子の飛散による二次感染が拡大する可能性が高くなる。
- (4) 中生・晩生品種については現在のところ発生圃場を認めていないが、今後発生するものと予想される。

### 6 本病の特徴について

本病は卵菌類による病害であり、前年秋～初冬の苗床や圃場で土中の卵胞子が、降雨等により苗にはね上がり感染し、本田で越年罹病株として発病する。この越年罹病株上に形成された分生胞子が風雨で飛散し、二次感染が起こる。発病は気温15℃前後で高湿度状態(曇雨天)が、1～2日続く場合に助長される。好適条件において病勢の進展はきわめて速い。

### 7 防除対策について

- (1) 越年罹病株の抜き取りを徹底する。広域伝染は越年罹病株で形成された胞子によって起こるため、防除対策はまず、越年罹病株の抜き取りが重要である。
- (2) 越年罹病株は、圃場内で徐々に発生してくるため、定期的(3月末まで、1～2週間に1回)に圃場をよく観察し、抜き取りを行う。また、胞子飛散を防ぐため、抜き取った株は直ちにポリ袋

などに入れ、必ず圃場外へ持ち出した上で、残さ（抜き取った株）の重量に対して1%の割合で石灰窒素を混ぜ、密封して確実に腐らしてから処分する。

- (3) 発病を認めた場合は、栽培暦やタマネギベと病対策マニュアル（技術者版）を活用し、罹病株の抜き取りと薬剤防除を徹底すること。
- (4) 薬剤防除は、**発病の有無にかかわらず、防除暦に従って必ず行う（中生・晩生を含めて全品種）。**  
散布時期は降雨前が望ましい。なお、薬剤散布にあたっては、タマネギの生育に応じた水量とし、散布ムラの無いように丁寧に行うこと。
- (5) 中生・晩生品種についても今後、発病が認められた場合、抜き取り等同様の対応が必要になる。

表1 ベと病調査集計表

調査年月日:2017年2月3日

調査圃場数	発病圃場数	発病圃場率(%)	調査株数	発病株数	発病株率(%)
51	2	3.9	28400	2	0.01

表2 タマネギベと病発病調査(現地巡回調査)

調査年月日:2017年2月3日

調査場所	調査圃場数	発病圃場数	発病圃場率(%)	調査株数	発病株数	発病株率(%)
淡路市	1	0	0.0	3200	0	0.00
洲本市	7	0	0.0	5200	0	0.00
南あわじ市	38	1	2.6	15200	1	0.01
計	46	1		23600	1	
平均			2.2			0.004

表3 タマネギベと病発病調査(既発生地調査)

調査年月日:2017年2月3日

調査場所	調査圃場数	発病圃場数	発病圃場率(%)	調査株数	発病株数	発病株率(%)
南あわじ市	4	1	25.0	1600	1	0.06
洲本市	1	0	0.0	3200	0	0.00
計	5	1		4800	1	
平均			20.0			0.021



写真 越年罹病株（葉身が湾曲・黄化し、分生胞子を形成する。右写真のように生育が悪く、草丈が低くなることもある。）

\*この情報は、兵庫県立農林水産技術総合センターホームページに掲載しています。

(<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/>)

問い合わせ先 兵庫県病害虫防除所 0790-47-1222